

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	4	3	2	1	評価	成果	課題	改善案	担当より ＜次年度に向けた改善策等＞
I 令和6年度の重点目標											
1 (1) 重点目標1	・鹿骨授業スタンダード(SJS)、あじみこしの実践を通して授業改善、充実させ、「わかる授業」「個別最適化」を実現し、学力向上を図る	授業公開・発表会で成果を確かめることができた。「振り返り」については課題が残った。ETの活用についても研究を進める。	9	13	0	0	100%	①対話のある授業展開の工夫ができた。 ②あじみこしの実践は学校全体の授業規律に繋がっている。 ③授業のスタイルもSJSが基本になっているので、何をやっているのかわからない生徒はいないと思われる。 ④生徒に身に付いてきた。 ⑤研究発表に向けて全員がSJSとあじみこしを実践し授業改善に努めており、わかる授業が増えた。 ⑥ETの結果からも日々のSJSが身につけていることが分かった。 ⑦SJSが定着してきている。 ⑧毎授業に授業の目標、授業手順を示し、生徒が準備できるようにした。 ⑨「振り返り」は2授業に1回の割合でreflectionとして提出させ、生徒の反応をよく知ることができた。 ⑩江戸川区教育課題実践推進校として「学び方を身に付ける生徒の育成」をテーマとし研究を実施することができた	①振り返りの時間と運動量のバランスを工夫する。 ②振り返りに注力することで学力向上を図りたい。 ③研究発表後も、SJSの実践を継続し、授業が分からないという生徒がでないようにする。 ④振り返りを時間内で実施できるように工夫する。 ⑤今後も継続する。	①先生方の「振り返り」の取り組みや工夫、実践などについて学ぶ。 ②SJSを徹底する。 ③教員同士の授業見学週間を学期に1回つくり、学び合うことで授業力UPを図る。 ④振り返りを実施できるように、各教科での工夫が必要。 ⑤常に授業改善の意識を高めていく	○振り返りの仕方を工夫、実践していく。 ○教科でシステム共有するようにしていく。 ○教科部会で情報共有を行う ○相互に参観できる機会をつくる。 ○授業改善と振り返りを徹底する。
2 (2) 重点目標2	・学びあい、協働できる「学級」の実現を図り、授業を大切に、思いやりのある生徒の育成を図る	学級指導を支える学年経営が重要である。学年主任のリーダーシップに感謝と期待。	7	13	2	0	91%	①学びあい、協働できる「学級」の実現に向けて、教員同士で情報交換をしている。 ②学年主任の先生方が学年全体をよく把握し、共通実践すべき内容を大切にしてくれている。 ③協働する意識が芽生えてきた。 ④3年生は少しずつだが、成長し、大人になった。 ⑤毎授業ごとに個別課題と協同で行う課題を用意し、両方が達成できるシステムを作った。 ⑥研究の成果として、分かりやすい授業を実感する生徒が94%となった	①「学級活動」の目標と内容を折に触れ見直し、学び合うことのできる学級集団を作る。 ②強力なリーダーをもう少し育成する。 ③粘り強い指導を各先生で行い徹底できるように尽力する。 ④生徒間や大人に対して、適切な言葉使いができるよう指導する。 ⑤今後も継続する。	①「学級活動」の目標と内容を機会ある度に見直し、意識して生徒に対峙したい。 ②リーダー候補に様々な役割を与える。 ③引き続きしていくことが大切であり、それぞれが知恵を出し合い、一面的な指導ではなく多角的な指導をしていく。 ④教員によって対応が変わらないように指導を積み重ねる。 ⑤常に授業改善の意識を高めていく。	○来年度も継続して情報交換して指導力の向上を図る。 ○成果の⑤を各教科で考え実践する。 ○生徒の状況を情報交換し、SCやSSWから助言をもらうなど指導に生かす。 ○生活指導主任を中心に、複数で指導にあたる。
3 (3) 重点目標3	・対話と体験の充実を図り、外部教育資源を活用した授業、取り組みを展開し、教育の実現を図る	単元指導評価計画を活用して充実した授業実践ができた。全教科で年1回取り組んでいく。	7	14	1	0	95%	①ひとの話聞く態度や姿勢に、よい変容をもたらしている。 ②外部教育資源を活用した授業は生徒にとっては大変興味深く深い学びにつながった。 ③対話的な学習活動が実現できている。 ④ほとんどの教科で実施できた。 ⑤単元指導計画とともに、各課のテーマを読み取れるような課題を設定した。 ⑥チョコレートの南北問題、海洋ゴミの問題など課題を深めることができた。	①外部教育資源を活用できるように情報を集め工夫して実施する。 ②今後も継続する。	①費用がかかる場合は生徒教材費に組み込む。 ②外部教育資源をどう活用していくかを考えていく。 ③今後も継続する。	○授業の内容や質を高めるために、今後も継続していく。費用については、学校として検討する。 ○年度当初に計画し、予算に盛り込む。

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	4	3	2	1	評価	成果	課題	改善案	担当より <次年度に向けた改善策等>
-------------	----------	--------	---	---	---	---	----	----	----	-----	-----------------------

2 令和6年度の重点取り組み

4	(1)江戸川区教育課題 実践推進校	・推進校の指定を受けて、授業改善の取り組みを振り返り整理をしつつ、「学び方を身に付けた生徒」の育成について研究し、11月に発表を行う	研究推進委員会のリーダーシップで研究成果を発表した。多数の参観者があり、区内外に本校の取組を伝えることができた。	10	12	0	0	100%	①単元別指導計画をQRコード化するやり方を学ぶことができた。 ②SJSを意識した授業をすることができた。 ③我々自身が非認知能力を育てることの大切さ等を実感することができたし、今まで実践してきた内容を形に表すことのできるよい機会となった。 ④授業内容の研究を通して、生徒の学ぶ内容の深度に関して改めて考えることができた。 ⑤研究主任のリーダーシップで良い発表をすることができた。 ⑥全職員が協力して良い発表になったと感じる。 ⑦研究授業を通して、お互いの授業を見合ったり、自分自身の授業を振り返ったりすることで、授業力の向上につながった。 ⑧日々実践している授業の方向性が間違っていないことが認識できた。 ⑨先生方の協力のおかげで、無事に発表を終えることができた。 ⑩自分の授業の中では個別に行う「反転学習」と協同で行う課題をもうけて、両方の形で学習ができるようにし、英語の学び方が身につくように指導した。	①少しずつ身に付いている学び方をさらに育ててゆく授業の展開。 ②発表等に取り組む際は、話し合いにおける決定事項を大切に、計画的に進めることが重要である。	①研究の計画を立てて、研究推進委員のメンバーを中心に、進めていく必要がある。	○来年度も、先生方に1回ずつの講師(計2回)を招いての研究授業を計画する。
5	(2)授業改善の推進	・単元指導計画の様式統一、外部教育資源(人材)の活用、主体的・対話的で深い学びの研究授業	質の高い授業を実践している。教員が意欲的に取り組んだ成果である。授業改善をさらに推進する。	10	11	1	0	95%	①「SJS」と「あじみこし」で「凡事徹底」することが主体的な学びのステップであることを理解した。 ②各教員が意識高く行った。 ③教員が統一した意識をもって、授業を実践しているため、生徒の戸惑いが少ない。 ④毎回の授業は、中身は違うが形式的には同じ流れになっており、慣れるごとに授業の取り組みやすさを感じる生徒も出てきた。 ⑤ALTがパフォーマンステストやテーマ学習の導入を考え、生かすことができた。	①興味関心の持たせ方・見通しの持たせ方・まとめ方・振り返り方・次へのつなげ方…などの指導技術について更に研究を継続する。 ②今年度の研究が特別なものではなく、日常の当たり前のことであることを認識する。	①お互いの授業に関心を持ち、授業を見せ合う。 ②授業はこれまで通り実践を続けていく。	○課題①② 今回の研究成果を軸として、来年度も校内授業研究の機会を設け、教員全体で向上を目指していく。 ○改善案①② 昨年度(研究発表の前の年)は、全員が授業に入っていたため、なかなか授業を見合う機会が確保できなかった。今年度の2回の校内授業研究のように、授業がないクラスをつくり、機会を設けたいと考えている。

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	評価				成果	課題	改善案	担当より <次年度に向けた改善策等>	
			4	3	2	1					
6 (3) 学級経営方針の作成	・学校経営方針、学年経営方針に基づき、学級担任は学級経営方針を作成し、公表する	学年教員集団が一体感をもって学年運営をしている。学年から学校全体へ発展させる。	7	14	1	0	95%	①学校・学年で指導事項を確認しながら進めることできた。 ②年度当初に作成し、1年の見直しをもって指導に当たることができている。 ③学年が足並みをそろえて運営できた。	①担任裁量部分の違いに関してはお互いに確認し合い、どのクラスの生徒も満足できるように配慮する。 ②担任、副担任が協力して学年運営に取り組む必要がある。	①そろえる部分はそろえる。そのためには独自の判断で行動しない。必ず学年で確認する。細かい部分まで主任(あるいは担当者)が舵取りをする。 ②計画的に物事を進め、自らの仕事に責任をもつ。	○学年会等で細かい部分まで確認する。気になるところがあれば、声をかけ合う。(改善案のとおり) ○学校経営方針に則って、学年経営を作成し、それを基に学級経営を作成することが大切である。学年間で情報共有を行い、学年会等でもその都度確認する。 ○最終的な到達目標は学年で共通認識をもつように情報共有を密にしていく。その上で手段に関しては、各クラスの経営計画に沿って取り組んでいく。
	・学級指導、学級指導と関連付けて指導できるように特別活動の年間計画、道徳科の年間計画、総合的な学習の時間(含む、読書科)の年間計画を共有し、HP上に公表する	学級指導は、日常的に領域や教科にとらわれず、生徒理解に基づく学級指導を行うことが重要である。学級経営計画を根拠に意図的、計画的な指導の充実を図った。	8	14	0	0	100%	①特別活動の年間計画、道徳科の年間計画、総合的な学習の時間を関連付けながら、学年の目標に向かって指導をしていくことができた。 ②学級経営方針を基に、年間指導するとともに、場合によっては臨機応変に対応することもできた。 ③概ね計画通りに運営できた。 ④先を見通した学級指導を進めることができた。	①早めの計画と事前の直前の確認を忘れず、計画通りに実行する。	①早めに見直しをもち、計画・運営していく	○早めに学年会で確認し、直前に朝打ち等で再確認をする。提案がなければ、声をかけ合う。(改善案のとおり) ○学年経営計画を立て、それを基に学級担任は見直しをもって指導することが大切である。学年会等で確認しながら進めていく。 ○早めの計画を心がけ、修正があった場合は、全体へ周知する。教務との連携が遅くならないように意識する。
8 (4) 外部教育資源の活用	・各教科、領域で外部人材等の活用の授業案を作成し、年間指導計画及び単元指導計画に位置づけをする。	多様な外部教育資源を活用することができた。年間指導計画、単元指導評価計画に位置付けることができた	10	11	1	0	95%	①ALTを積極的に活用し、生徒が他国の言語や文化に触れる機会が増え、外国語に関する興味・関心を高めることができた。 ②単元指導評価計画を活用して、1つの授業だけでなく、単元を通して、身に付けたい力を考えることができた。 ③外部教育資源を活用することができた。 ④年間指導計画、単元指導評価計画に位置付けることができた。 ⑤ALTの特性を生かして、ALT自身が授業の内容を主体的に作成し、生徒がより興味を持って授業に取り組む結果につながった。	①今後も継続する。	①今後も継続する。	○不十分な点は再度考案・検討していく。 ○学年計画・単元計画をしっかりと立て作成する。
	・実施にあたっては、外部人材等を活用した授業の前後の授業計画を充実させ、育てる資質・能力を明確にするとともに授業のねらいを外部人材等と共有する。	充実した外部人材を活用した授業のためには、外部講師と育てたい力を共有することが不可欠である。単元指導評価計画や実施要項で「ねらい」を共有して実施できた。	11	10	1	0	95%	①外部人材を活かし実りある授業が実践できた。 ②外部人材を活用した授業を実践していただいた先生方に感謝しております。 ③単元指導評価計画や実施要項で「ねらい」を共有して実施できた。 ④海洋ゴミのテーマでは、パフォーマンステストをALTが行い、日本人教師と評価の一致を図り、生徒も積極的に取り組めた。	①今後も継続する。	①今後も継続する。	○外部人材を積極的に入れる。 ○単元指導評価計画を作成する。

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

↓…%の表示は「4+3」の全体に対する割合 ①②は便宜的なナンバリング

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	4	3	2	1	評価	成果	課題	改善案	担当より <次年度に向けた改善策等>
3 教育課程全体に係る方針											
10	(1) 人権を尊重する教育	・人間尊重、多様性の尊重、非排他的、機会均等、環境等の価値観を、全教育活動通じて育成する	10	11	1	0	95%	①人権を意識した声かけができた。 ②東京や他地域での部落差別に関して学び、他教員との共有ができた。 ③生徒に対する指導はできています。 ④場面を生かした指導も大切であるが、テーマごとに人権問題が出てきたときに、その課題を通じて指導している。 ⑤カカオ収穫の児童労働問題に触れることができた。	①人の気持ちを思いやった適切な言葉遣いができるように指導する。	①その都度指導していく。	○人権についての研修を計画的に実施する。 ○人権感覚を高めるために、言葉を選び指導していく。
11	(1) 人権を尊重する教育	・人権尊重の精神を根底において教育活動を行う	8	13	1	0	95%	①学年や学校全体で共有し、人権感覚の錬磨につなげた。 ②生徒の人権尊重を最優先した指導を実践できた。	①人権教育プログラムの活用。 ②教員の人権意識を高める。 ③適切な言葉遣いと適切な表現で人権尊重の精神を貫く。 ④休み時間等にも生徒に寄り添い、嫌な気持ちをさせる生徒がいないように、「悪ふざけ」も見逃さない。 ⑤平素の観察により把握した生徒の状況を指導の目標設定に役立てる。	①読むだけでも人権感覚の磨きにつながります。人権課題と関連づけた教科の授業を互いに紹介したり、見学したりすることも良い刺激になります。 ②伝えることは感情的にではなく、論理的に伝えることが大切である。 ③気づいたときに、その場で注意していく不断の努力が必要である。	○①人権プログラムに関しては今年度は十分に活用することができていなかった。来年度活用していく。 ○②③④ 生徒に問いを与える指導を基本として、不適切な言動等は見逃さず指導していくことが大切だ。人権に関するを指導していくという意識を常に持ち、生徒の気持ちを尊重する指導を行う。
12	(2) 心の教育の推進	・全ての教育活動を通して、思いやりと自立の心を育てる(寛容とアイデンティティ)	8	13	1	0	95%	①違いを大切にすることは必要であり、実践できていると考える。しかし、生徒が違いに対する認識を都合の良いように解釈し、誤解しないように、伝え方を注意する必要がある。 ②学校に行きづらくなった生徒に対する寛容な態度が頻繁に見受けられる。 ③自分自身で判断して、委員会や係の仕事にきちんと取り組んでいる生徒が多い。	①「違い」を認め、思いやりを持ったコミュニケーションができるように指導を継続する。 ②人を傷つけるようなことがないように、適切な言葉遣いを指導し、教室内が和やかで穏やかな雰囲気となるようにする。	①中央委員会を通して、リーダーとなる生徒からの呼びかけを中心に思いやりの心を育てる。 ②逃さず粘り強く指導していく。	○まずは生徒のリーダーの心を育て、それを波及させることが学級、学年集団の成長につながると考える。 ○あきらめず、何度でも指導をしていくことが必要である。全教員がその姿勢を見せることが生徒の変容につながる。
13	(2) 心の教育の推進	・感謝の心の育成のため、道徳科、特別活動、ボランティア活動の充実を図る	11	11	0	0	100%	①気持ちよくボランティア活動に参加する生徒がふえている。 ②各教員が生徒に向き合い、対話して生徒の心の育成に努めている。 ③遅刻カードを書いても、プリントを渡しても、ありがとうございますという感謝の言葉が自然に出てくる生徒が多い。	①花のボランティア活動では、全ての学年から様々な性格の生徒が集まるので、参加生徒が気持ちよく作業できるように工夫する。	①人数も増えているので、対象を学年別にしてもよいのではないかと考える。 ②地域清掃を実施し、地域とのつながりを深める。 ③ボランティアの意識を高める。	○ボランティア生徒の募集を学年に割り振るのでなく、生徒の主体性を尊重する。 ○クリーン作戦等の実施を検討する。
14	(3) 感染防止を踏まえた教育活動の編成と実施	・感染症の拡大防止に努め、計画と指導方法の工夫により教育目標を達成する	13	8	1	0	95%	①換気の大切さが委員会活動を通じて広がりつつある。生徒も感染防止に関する意識が高くなっている。 ②感染防止の意識はよく根付いているように思われる。 ③給食中に話をしたり、後ろを向く生徒は少ない。 ④手洗い、マスクもちゃんと行われている。	①状況を的確に判断し、折に触れ、感染症に対する注意喚起を行う。	①保健だよりや掲示物などで啓発活動を続けていく	○各種たよりや、掲示物などで生徒、家庭に感染症予防対策について啓発する。 ○保護者会などの機会をとらえ、保護者に協力を要請する。
15	(4) チーム鹿骨の教育	・教職員、保護者、地域社会がチームとなり、生徒の成長を支える教育活動を行う	8	14	0	0	100%	①ボブラ祭に積極的に関わる生徒が増えている。 ②緑道沿いの花壇が四季折々に植え替えられ、それが生徒のボランティアによって行われているのは、この学校の素晴らしい特色の一つと思われる。			○来年度10月26日にボブラ祭を実施する。 ○PTAも意欲的に活動している。学校、PTA、地域の連携を図る

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	4	3	2	1	評価	成果	課題	改善案	担当より <次年度に向けた改善策等>
4 学力向上											
16 (1)「主体的・対話的で深い学び」	・授業を学力向上の柱とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る学習指導を行う	SJSの取組を通して目標を達成している。学力調査の結果で実感できるよう指導している。	13	9	0	0	100%	①生徒同士のコミュニケーションを重視できた。 ②グループワークが当たり前になり、上手に取り組める生徒が増えた。 ③発表の力も高まっている。 ④SJSは皆さん意識して実施している。 ⑤基礎学力の向上と「主体的・対話的」な学習を両立させるために、どの授業でも二種類の学習ができるように取り組んだ。	①話し合いの方法や「問い」の質の向上を目指す。	①関連するような指導を入れていく。	○学力テストの結果の分析など各教科で研修会などで行う。
	・対話的な学習活動を重視し、生徒が主体的に取り組む授業の充実を図る	「学びのエンゲージメントテスト(ET)」で3年生の全国平均超の成長を確かめることができた。非認知能力の向上を図る	12	10	0	0	100%	①対話的な学習を各授業で取り入れた。 ②対話的な学習活動を積極的に取り入れている。 ③生徒が仲間と相談して取り組む課題と主体的に取り組む課題を用意し、ある程度の成果を上げている。	①学びのエンゲージメントテストを来年度以降にも実施するの か、検討が必要である。 ②発表や話し合いが苦手な生徒への配慮も忘れず、工夫して実践する。	①十分に活用できているとは考える。 ②対話的な学習活動を苦手とする生徒へ対応を考えていく。	○ETを実施し、結果を「学び方」の向上に活用する。
18 (2)「鹿骨授業スタンダード(SJS)」	・授業の目標、学習活動の流れ、振り返りという基本的な授業構造を「鹿骨授業スタンダード(SJS)」として統一する	SJSが生徒に定着している。見通しをもって学習活動に取り組むことができています。「振り返り」の指導の充実を図る授業改善に取り組む。	12	10	0	0	100%	①ETの結果からも日々のSJSが身につけていることが分かった。 ②SJSが生徒に定着している。 ③見通しをもって学習活動に取り組むことができています。 ④授業の目標、手順を毎時間提示し生徒が流れを理解し準備できるようにした。 ⑤2回に1回の割合で振り返りreflectionを行い、生徒の理解度や感想をチェックすることができた。	①「振り返り」の指導の充実を図る授業改善に取り組む。 ②転入されてくる教職員の方や講師の先生方との共通理解と共通実践。	①各教科で検討する。	○SJSが定着してきているので、今後も継続していく。 ○転入してくる教員や時間講師と共通理解、共通実践をする。
	・生徒が「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何を学んだのか」をわかる授業を行う	「授業が分かる」生徒は9割を超え、成果が見られる。さらに充実させる。	11	11	0	0	100%	①言葉だけの説明では理解の難しい生徒がいるので、ICTを活用した。 ②「授業が分かる」生徒は9割を超え、成果が見られる。 ③目標、手順をはっきりさせることで、予想がつく生徒たちは、しっかりと準備ができるようになった。	①授業が分かることはもちろん大切だが、できるようになるように根気よく指導する必要がある。 ②さらに充実させていく。	①どう家庭学習に繋げていくのかが大切である。 ②さらに充実させていく。	○振り返りの充実を図っていく。「学び方」を育て、家庭学習に取り組めるように指導する。
20 (3)「学び方を身に付ける学習評価」	・ポートフォリオを重視して、学習を振り返り、生徒が見通しをもって粘り強く学習に取り組めるよう適切な学習評価を行う(アセスメントとしての学習評価)	学び方を身に付ける生徒の育成を目標に研究に取り組んだ。ET等で成果を確かめることができた。今後、学習評価の質の向上に取り組む。	9	13	0	0	100%	①学び方を身に付ける生徒の育成を目標に研究に取り組んだ。 ②ET等で成果を確かめることができた。 ③帯学習の基本文を配布すると、翌日は基本文を暗唱してくる生徒が出た。このような努力に対ししっかり評価の言葉をかけるとともに、部分的にできた生徒に対しても形成的評価に努めた。	①学習評価の質の向上に取り組む。形成的評価のためのルーブリックの活用や評価規準の質の向上のためのアセスメント。	①学習評価の質の向上に取り組む。	○学習評価の質の向上に取り組む。 例えば、ルーブリックの活用を研究して学習評価の質を高めていく。 ○ルーブリックの活用や評価についての研修を行う。
	・生徒の習熟度に応じた学習指導のための学習評価を行う(指導と評価の一体化としての学習評価)	数学科の習熟度別少人数授業を円滑に実施している。成果を全教科に広げていく。	10	12	0	0	100%	①数学科の習熟度別少人数授業を円滑に実施している。 ②暗唱課題をABCの三段階にし、どの生徒も取り組めるようにした。ほとんどの生徒は暗唱のウルトラCを目指して努力している。	①成果を全教科に広げていく。 ②授業の後まで、この暗唱がいけるように、また、その時間だけで終わらせないように工夫を凝らす。	①成果を全教科に広げていく。 ②継続的に取り組めるようにするには、主体的に取り組む仕掛けを考える。	○次年度は英語科も少人数授業が開始される。それによりさらに単元指導評価計画の共有を行う機会を設ける。

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

↓…%の表示は「4+3」の全体に対する割合 ①②は便宜的なナンバリング

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	4	3	2	1	評価	成果	課題	改善案	担当より <次年度に向けた改善策等>
22	・地域社会の人的資源を活用した授業を行う。 (外部人材の活用、専門性を生かした指導)	民間や地域の人的資源を生かした取組が成果を上げている。体験的、探究的な学習の充実を図る。	8	13	1	0	95%	①ALTとの連携を例年より深く取れた。 ②民間や地域の人的資源を生かした取組が成果を上げている。 ③ALTの特性を生かした授業実践を行った。	①体験的、探究的な学習の充実を図る。 ②探究レポートの充実(問の設定)と総合的な学習の時間の構造を理解した全体計画の見直し。	①体験的、探究的な学習の充実を図る。	○ALTを生かした授業実践を行うことができたので、次年度は体験的・探究的な学習の充実を図る。
23	(4)「外部の教育資源の活用」	・物的資源を生かした授業を行う。 (行政施策等を活用し、機会と素材を生かした指導)	8	13	0	1	95%	①学校予算ではできない授業を行政や経済同友会等の団体の資源を活かすことができた。	①今年度から、学力調査が始まったが、実施の流れ等を学習進路指導部から提案し、ミス等が起こらないように慎重に運営する。 ③さらに充実させていく。 ④研修会などで示されたアイデアを活用している。 ⑤放課後補充教室などの活用の仕方。	①学年ごとにやるべきことと、組織としてやるべきことを検討し見極めることが必要。 ②さらに充実させていく。 ③どのような外部資源が自分の授業の中で活用可能なのか、研究する必要がある。 ④様々な情報を入手し、取り入れるべきものがあれば取り入れる。	○学年としてやるべきことと組織としてやるべきことを精査して検討していく。さらに情報を収集していく。 ○経済同友会や「マナー講座」もさらに充実させて行う。
24	・環境的教育資源を生かした授業を行う。 (自然、施設、地域環境を生かした指導)	秩父の自然を生かした林間学校、京都奈良の歴史資源を生かした修学旅行などで、探究学習の充実を図ることができた。	12	10	0	0	100%	①秩父の自然を生かした林間学校、京都奈良の歴史資源を生かした修学旅行などで、探究学習の充実を図ることができた。 ②緑道の学校花壇の花は、素晴らしい外部の環境教育資源にあたると思います。	①今後も継続させる。	①今後も継続させる。	○学びのある宿泊行事を計画をもって行う。

5 生活指導

25	(1) 基本的な生活習慣の定着を図る	・「あじみこし」あいさつ、時間、身だしなみ、言葉づかい、姿勢を指導する	9	11	2	0	91%	①時間を大事に、という意識づけを頻繁に行った。 ②あじみこし、という言葉は生徒に浸透している。 ③2学年は学年目標にも使われている。 ④意識してはいる。 ⑤生徒の中でキーワードとして定着した。 ⑥3年生は改善が見られ、成長を感じた。 ⑦あじみこしを意識できている生徒が増えている。 ⑧生徒の気持ちの良い挨拶ができてきているのは、成果だと思います。	①生徒同士で、また教員に対しての適切な言葉遣いができるように指導する。 ②服装・みだしなみ、持ち物のきまりを遵守する態度を育てていく。 ③あいさつを褒められる場面が多いがさらにレベルを上げる。 ④「あじみこし」を更に浸透させ全ての生徒の行動の基本とする。 ア:言葉遣いに対する意識を高める。親しき中にも礼儀あり。 イ:朝の予鈴が鳴っているのに、ただただと歩いている生徒が多いのはどう考えるか。時間を守ることを意識を高めるためにも、細かいところから意識し、生徒の意識も変わってくると考える。 ウ:最終下校時刻に対する認識が甘いので顧問の先生を中心に最終下校時刻は門で下校指導をすべきである。近隣で溜まる生徒も減る。	①何度でも指導する。 ②できている生徒をより育てていく ③教員からも生徒にあいさつする。 ④教職員同志もあいさつする。 ⑤なぜ大切なのか、なぜ必要なのか、様々な場面で様々な人が継続して伝えていく。 ア:教員が同じように指導にあたっていく必要がある。 イ:予鈴遅刻をなくし、8:20または8:25出欠確認とする。多数の生徒は8:20に来ているので、8:20とは思うが、いきなりだと困惑する可能性もあるので、移行期間的なものを設けるのもありかもしれない。 ウ:教員が意識すれば、生徒も急がなければならないと思うはずである。門のところに溜まりがちなので、18:00のときに部活動の顧問を中心に下校を促す。	○あいさつに関しては、生徒会でのあいさつ運動を生徒会全体で取り組む。 ○服装、身だしなみ、言葉遣いに関しては、その場で逃さず指導することを全教員が同じ温度で指導することが大切である。組織的に取り組んでいく。 ○登下校の時間は8時20分から朝読書が始められる時間に登校できるよう指導していく。
----	--------------------	-------------------------------------	---	----	---	---	-----	--	--	--	---

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

↓…%の表示は「4+3」の全体に対する割合 ①②は便宜的なナンバリング

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	4	3	2	1	評価	成果	課題	改善案	担当より <次年度に向けた改善策等>
26 (2)学級指導・学級活動を充実させる	・席替えやグループワーク、学級目標の設定や話し合い活動の充実を図り、よりよい集団を作り、協働できる力を育成する	特別な支援を要する生徒や合理的配慮を求める生徒を学級集団の一員として受け入れる風土ができています。日常の指導を大切にします。	9	13	0	0	100%	①エンカウンター、行事に向けた話し合いなどの学級活動を通じて、集団で目標に向かって取り組むことの良さを味わうことができるように指導できた。 ②合理的配慮を各機関と連携して行えた。 ③気持ちよく授業ができる学級づくりができています。	①席替えやグループワーク時の生徒の意識の把握。		○多様な生徒がいる中で、生徒自らが班、学級、学年、学校をよいものにしていくとする姿勢が大切である。そのために、学級委員や生徒会等、リーダーを活用しながら全校で取り組んでいく。
27 (3)集団生活の基本的な規律を自ら理解し、自ら行動できるように指導する	・集団のきまりの「なぜ」を考え、選択して行動できるように学級活動等を重視する	きまりの意味を理解して主体的に行動できる生徒が増えた。特に3年生の身だしなみはよい。	9	12	1	0	95%	①規範意識を生徒にもってもらえるように指導した。 ②根気強い指導の成果が見られる。 ③3年生は指導が通りやすく、すぐに行動を改めることができる。	①全ての生徒が協力して当番活動に取り組むように指導を継続する。 ②身だしなみの指導を継続的に実施する。	①学校、学年、学級の一員としてやるべきこと、やった方がよいこと、なぜを大切に粘り強く指導にあたる。 ②厳しい指導が難しい時代だが、粘り強く声掛けし、指導していく。	○集団の一員としてのきまり事ややらなければならないことの「なぜ」を学級活動や道徳の時間、総合的な学習の時間等を使って、継続的に指導していく。身だしなみに関しては、保護者の協力が不可欠なので、保護者会や面談で協力を求めている。
28 (4)暴力・いじめゼロを目指す	・いかなる暴力もなくし、いじめを早期に発見し、解決まで継続的に指導、支援する	根気のいる指導であるが、成果を上げている。生徒間暴力はほとんどなくなった。言葉の選択ができることが課題である。	8	14	0	0	100%	①3年生は自分の進路を見据えている生徒が多く、お互いへの暴力や暴言はほとんど見られない。	①適切な言葉遣い、表現の仕方を身に付けさせ、嫌な気持ちをする生徒がいなくなるようにする。		○休み時間等、これまで同様、生徒を見守り、常にアンテナを高くして指導する。言葉の暴力に関しては、まずその場で注意するとともに、学級活動や道徳の時間等を使って全体に問いかける指導を継続的にしていく。
29 (5)ICTに係るモラルとリテラシーの育成を図る	・ICT授業規律やSNSルールなどを策定して、生徒、保護者と共有し、適切な判断と行動ができるようにする	タブレット端末の使用状況は概ね良好だが、SNSに関するトラブルは横ばいである。保護者の責任と学校の指導と協働してモラルの向上を図る	4	14	4	0	82%	①日常的にタブレットに触れることで違和感無く操作することができるようになっている。 ②My Town CMや学校紹介などiPadを活用して授業に利用することができた。	①タブレット依存、学習への弊害とならないように様々な角度からの指導を継続する。 ②校内でのタブレット端末の使用方法を徹底する。 ③授業外の使用状況についても指導を継続する。 ④さまざまなアプリケーションを使いこなすにはさらに研究が必要である。	①タブレットにかかわらず、生徒の道徳的な成長が必要。 ②ルールに反した使用方法をしている生徒を見逃す事はないのはもちろん、ルールの徹底をしていかなければならない。 ③まずは、目に見えるところから指導をしていくことが大切である。	○生徒のタブレットの使用について、授業での効果的な使用ができるようになったが、学習以外での使用に課題がある。年度当初にルールを確認、指導する「SNSあじみこし」を作成し、教室掲示し注意喚起、意識付けを行う。
30 (6)安全教育	・安全教育は「命の授業」と捉え、重点とする。	日常的に安全教育を行った。災害、交通、生活安全の充実を図り、自他の命を守る資質・能力の向上を推進する。	11	11	0	0	100%	①映像を使った授業では、生徒にとってわかり易かったと思う。 ②月1回の安全指導。今年度は動画を主に使ったが、すべて生徒にわかりやすい内容だった。 ③よく考えていた。 ④毎月計画的に実施することができている。 ⑤動画を見せることで生徒も具体的なイメージをもちやすい。 ⑥避難訓練に真剣に取り組むことができた。	①交通事故、地震、水害、その他の災害について、現状での安全対策で十分であるかどうかの検討を常に行う。		○安全指導を計画的に行うことができた。今年度は映像を使った指導も増え、生徒にとってわかりやすかったので、継続して行っていく。来年度、学校安全全体計画の見直しを行う。
31 (6)安全教育	・災害安全では日常的な指導を基本として、地域や関係機関と連携した防災教育を行う	避難所運営協議会と連携したイベントをポプラ祭で実施した。発展させていく。	8	13	1	0	95%	①安全指導を通して、日常に潜む危険について意識レベルを上げることができた。	①避難経路となる場所に物品が置かれていないことを常に確認する。(ボール貸出前のイス等) ②動線が被らないので、1年生は地震のとき、中央階段から避難する練習もする。	①動線を確保し、何かあったときには、速やかに行動できるようにする。	○様々な場合を想定して避難訓練を行うことができた。避難の動線には障害物を置かないことを基本だが、訓練前に学年の教員が導線を確保する等の配慮が必要である。
32 (6)安全教育	・生活安全・交通安全では、生徒が自ら危険を予測し、安全に生活できる力を育成する	自転車の交通事故防止の知識とスキルを高める必要がある。外部の協力を得て安全教育を推進する。	9	13	0	0	100%	①安全指導の中で、動画を通して具体的なイメージをもつことができた。		①セーフティ教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室は全校生徒向けに毎年実施。	○各種教室を計画的に行っている。来年度は外部人材を活用した交通安全教室を全学年対象に実施予定。また、他の教室も全学年対象も視野に入れ検討していく。

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

↓…%の表示は「4+3」の全体に対する割合 ①②は便宜的なナンバリング

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	4	3	2	1	評価	成果	課題	改善案	担当より <次年度に向けた改善策等>
6 特別支援教育 (全ての生徒が安全で、安心して学ぶことができる学校を実現する。特別支援教育委員会を設置して、組織的に特別支援教育を推進する。)											
33	(1)不登校ゼロを目指す	・不登校生徒を出さない指導と社会的自立を目指す指導を行う	5	17	0	0	100%	①中学入学してからの新規の不登校生徒はほとんどいない。	①学校または外部の機関との繋がりを保てるように尽力する。 ②不登校生徒が出さない指導を継続する。	①学習保証を考える。 ②別室指導支援員の活用方法を考えていく。	○別室指導支援員の活用方法のマニュアルを作成する。
34		・教育相談体制の充実を図る					100%	①三者面談で情報提供と情報交換を行い、日々の指導に生かしている。 ②保護者からの相談に、どの職員も真摯に耳を傾けている。 ③教室に入れない生徒も、家にいるだけでなく、SSや学サポ、教育プラザなどを利用し、外部とのつながりのある生徒が多くなった。 ④不登校生徒に対してはできることを丁寧に模索し、個別によく対応している。	①希望される方がスムーズにSC面談を実施できるように工夫をする。	①相談数が増えていて、枠が足りないが来年度は多い3年が卒業するので枠が空く。	○留意生徒の共有をして、相談を促してつなげていく。
35	(2)特別支援教室	・発達障害があり、生きづらさを感じている生徒に寄り添い、自立できるコミュニケーションの指導を行う	10	12	0	0	100%	①巡回教員のアドバイスを受けながら個別指導計画を各担任が作成することができた。	①巡回利用の生徒を担当していない先生方にも、関心と理解が深まるように工夫をする。	①個別指導計画を教科担任にも(講師含む)提示して共通理解を図る。	○個別指導計画を教科担任にも(講師含む)提示して共通理解を図る。
36		・巡回教員と特別支援教室専門員との連携を強化し、全教職員で自立活動等の指導を行う	9	13	0	0	100%	①巡回教員、専門員の先生方からのアドバイスや言葉かけが生徒(保護者)の力になっているし、安心材料になっている。 ②具体的に我々がどのように関わったらよいかの助言も的確でわかりやすい。 ③専門員が的確に生徒に関わってくれている。 ④心強い。	①巡回利用の生徒を担当していない先生方にも、関心と理解が深まるように工夫をする。	①特別教室専門員を要として巡回教室の様子を全体に伝えたり、教科担任にも知らせたりして、共有していく。	○特別教室専門員を要として巡回教室の様子を全体に伝えたり、教科担任にも知らせる共有していく。
37	(3)関係機関との組織的連携	・スクールカウンセラーや関係機関との連携を図り、総合的な体制で生徒を支援する	8	14	0	0	100%	①SC,SSW,心理士と多くの視点が充実している。 ②地区別支援委員会での話し合いも充実している。	①希望される方がスムーズにSC面談を実施できるように工夫をする。 ②児相への迅速な対応。	①新入生全員面接の一層の充実。	○児相との連携を迅速に行う体制をつくる

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	4	3	2	1	評価	成果	課題	改善案	担当より <次年度に向けた改善策等>
7 生き方教育 (本物に触れる体験的な学習充実を図り、「生き方」を身に付けさせる)											
38 (1) 特別活動 (集団を生かした教育活動)	・学校行事では、育てたい力を明確にして、「学び」のある体験的、協働的な学習を行う	学校行事(宿泊行事含む)において「学び」の充実を図った。指導計画に基づいて外部機関と育てたい力を共有した。連絡調整がうまくいっている。ていねいな連携を図り、教育活動を実施していく	12	10	0	0	100%	①生徒主体の活動ができた。 ②実行委員は学年関係なく協力することができていた。 ③担当として林間学校を通し、生徒の協働的な活動を多く経験させることができた。 ④担当者の綿密な計画にもとづいて、生徒主体にすすめることができていた。 ⑤修学旅行は学びの多い充実したものになった。	①特別活動におけるSJSの確立(目標-学習活動-振り返り)	①単元指導評価計画の作成。 ②「育てる力」の明確化。 ③外部機関との単元指導計画の共有。	○実行委員が自分の役割に責任をもって活動ができた。次年度は早めの計画と周知をし、生徒が考えて動く場面を増やす。 ○実行委員を中心に、生徒自らが課題をみつけ、解決策を試行錯誤しながら作品を完成させる過程を大切に。グループワークと個別の学びを効果的に取り入れ、深い学びにつなげる。 ○班長中心で、各班の活動を自律して行い、計画どおり物事を行うために他の班員とコミュニケーションを積極的にとることを大切にする。トラブルが発生した時も臨機応変に対処するケースが必要なので、何が想定されるかを考えさせる学びを取り入れる。 ○授業と同じように活動前には必ず目標を明確化し最後には振り返りに取り組ませる。その上で、生徒全員が充実した活動になるように、何をどのように学ばせるかなど早めに計画を立て学習活動を工夫していく。
39	・儀式的行事では、学校生活の節目に自己を振り返るとともに、所属感を育て、伝統的な生活様式を学習させる。	始業式、終業式で校歌をよく歌うようになっている。参加態度も大変良い。TPOを主体的に理解し、判断し、行動できる力の伸長を図る	9	13	0	0	100%	①学校生活の節目である始業式や終業式では校長先生の講話や学級指導等で自己や集団の生活を振り返ったり、決意を新たにしたりすることができた。	①身だしなみや式に臨む姿勢についての目標を明確にし徹底する。	①規律と礼儀について理解させる。 ②気品ある態度で式に臨ませる。	○生活指導主任と教務主任が中心となり、目標を明確にし、儀式的行事に臨ませる。
40	・総合的な学習の時間の全校テーマを「生き方」として、授業を行う	読書科探究レポートのテーマ探しの一つとして「江戸川区2100年」出前授業を実施した	10	12	0	0	100%	①探究レポートのテーマが決まっていなかった1・2年生にとっては、考えをもつ1つのきっかけになっている。 ②読書科探究レポートのテーマ探しの一つとして「江戸川区2100年」出前授業を実施した	①次年度はまた違ったテーマで取り組むことも検討。 ②生徒が各自のテーマを見つけられるように十分な働きかけを行う。	①次年度はまた違ったテーマで取り組むことも検討。	○次年度も主要なテーマを「生き方」とし、多様なテーマを検討する。
41 (2) 総合的な学習の時間 (個人の探究的な学習)	・職場体験(チャレンジ・サ・ドリーム)では、多様な事業所の協力を得て、対話的で体験的な学習を行う	39事業所の協力を得て充実したチャレドリが実施できた。さらに充実を図る。	10	11	0	0	100%	①事業所の方からの評価は大変高かった。 ②生徒の自信につながった。 ③褒める場面が増えたことは大きい。 ④これまでと違った立場で関わることによって、成長を感じる場面が増えた。 ⑤事業所や各学年の教員で連携してチャレドリを実施できた。	①協力していただく新規事業所を開拓し、事業所の偏りを是正する。	①チャレドリ中の様々なハプニングを予想させて、正しい対策を考える時間を事前準備期間に組み込む。 ②学校応援団の方と引き続き協力していく。	○学年の取り組みだけでなく、学校の取り組みとして引き続き推進する。経済同友会の外部人材情報を次の学年に引き継いでいく。
42	・読書科では、読書に親しむ態度を育成するとともに、探究的な学習を通じて図書の活用の充実を図る	図書館支援員、PTAの図書ボランティアの協力で、図書室の環境整備が進んだ。活用を工夫する。	9	13	0	0	100%	①読書に親しむ姿がたくさん見られた。 ②図書館支援員、PTAの図書ボランティアの協力で、図書室の環境整備が進んだ。 ③活用を工夫する。	①図書館の利用を多くするための工夫をする。 ②もっと活用できるように工夫する。	①新入生に「図書館の使い方」レクチャーをする。同時に、1冊本を借り、朝読書につなげる。 ②図書館だよりで新しく入った本の紹介や先生おすすめの本紹介などができるとよい。 ③もっと活用できる工夫が必要。	○新入生に「図書館の使い方」レクチャーする。おすすめの本の紹介をするなど工夫する。

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

↓…%の表示は「4+3」の全体に対する割合 ①②は便宜的なナンバリング

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	4	3	2	1	評価	成果	課題	改善案	担当より <次年度に向けた改善策等>
43 44 45 (3) 道徳教育	・「特別な教科道徳」を道徳教育の要とする	道徳科22項目の授業を計画どおりを実施した。道徳授業地区公開講座等で指導内容の改善を図った。	8	14	0	0	100%	①道徳を通して他人の意見を尊重する空気を作ることを意識した。		①道徳は担任の先生が行うことがのぞましい。 ②ローテーションを行う場合は2学期からにする。	○道徳的实践力を身につけられる授業改善を検討する。
	・道徳科の授業で「対話する道徳」により道徳的価値観と実践力の育成を図る	道徳科の授業でもSJSが定着し、生徒は意欲的に授業に取り組み、道徳的実践力が向上している。	7	15	0	0	100%	①他人との意見の擦り合わせを意識的に行った。			○違いを認め合うために、生徒同士が対話的に学び、様々な価値観に対して寄り添えるような授業をしていく。
	・ポートフォリオ評価を重視して、生徒が自らの成長を実感できる評価を行う	授業ごとに「振り返り」を行い、通知表に年1回の評価を記載し、保護者と評価を共有した。	8	14	0	0	100%	①生徒の自己評価を保護者に共有し、生徒を家庭とともに育てていく意識を高めた。 ②三者面談等で丁寧に生徒情報や今後の課題を話すことができている。	①所見で評価するための、また変容を伝えるためのポートフォリオ的な評価(材料)を積み重ねる。		○今後も生徒の成果、課題を保護者と共有し、生徒自身の成長につなげていく。
46 47 48 (4) ボランティア活動 (社会生活と関連する教育活動)	・「花の街ししばね」花いっぱい運動を中心に据えたボランティア活動を展開する	参加生徒が年々増加して、花いっぱい運動が定着している。地域に誇りがもてるよう指導している。	9	12	1	0	95%	①進んで取り組みに参加しようとする生徒が増えてきている。 ②朝、親水緑道を散歩している方々が楽しみにしている様子が伝わってくる。	①非認知的能力の育成に繋がっていることを意識し、活動への参加を促す。		○花いっぱい運動を来年度3回以上実施する。
	・大掃除、地域清掃をボランティアで行い、進んで学校や地域に貢献する態度を育てる	大掃除ボランティアはほとんどの生徒が参加した。地域清掃では地域の協力が必要である。	8	14	0	0	100%	①大掃除に一生懸命取り組む生徒が多くて、とてもよい。 ②ボランティアに積極的に参加する生徒が多くてよかった。 ③多くの生徒がボランティア活動に参加した。	①非認知的能力の育成に繋がっていることを意識し、活動への参加を促す。		○ボランティア活動に積極的な生徒が多く、今後もボランティア清掃の形で計画していく。
	・地域と連携したボランティア活動を実施する	ポプラ祭「骨中パン」でパン製造販売店と協力できた。保護者・地域、行政機関と連携した。地域行事にも生徒ボランティアが参加している。	5	16	1	0	95%	①ボランティア生徒が自主的に参加していた。 ②前日の準備から積極的に良く動いていた。	①生徒の主体的な活動を支えるべく、教員の協力も呼びかける。		○PTAと連携し、ポプラ祭のボランティア参加者を募集する。
49 50 51 (5) 体力向上、食育	・自らの健康課題を把握させ、健康をつくり上げる力を育てる	体力調査を実施、概ね良好な結果である。う歯の治療率が低い。	6	16	0	0	100%	①体力テストの結果は良好であった	①齲歯の治療率を高める ②様々な場面で体力テストの結果を生徒が活用できるようにする。	①お知らせの再配布や、保健だよりでの呼びかけなど行っている時間をかけてしっかり振り返らせて、どう活用するか検討する	○今年度、特に未治療者の多かった1年生に個人面談時にお知らせを再配布してもらったが、その後も治療した生徒は0であった。保護者会や保健だより、掲示物などで齲歯の治療の大切さを伝え続ける。 ○主に体育の授業で振り返らせ、授業内容に反映させていく。可能であれば、運動部とも連携していく。
	・夢中になれることを見つけ、生きがいを育てる	充実した部活動が行われ、多くの生徒が参加している。	7	15	0	0	100%	①部活に熱心に取り組む、主体的に活動している生徒が多く見受けられる。 ②勉強が苦手な生徒でも、部活があるから学校に来る、部活の生徒との関わりが楽しくて学校に来る、という生徒が複数いる。 ③学校に居場所があることは素敵なことだと感じる。 ④部活動以外でも外部のクラブでの活躍も目立った。	①地域移行を視野に入れる。 ②生徒にとっての「居場所」を大切にする。		○部活動、外部クラブに参加する生徒を一人でも増やすよう努めていく。
	・安全でおいしく給食を実施し、食育の充実を図る	残菜率8.8%(11月)、安全でおいしい給食を目指して委託業者と連携している。	7	15	0	0	100%	①生徒が喜んで給食を食べている。 ②給食委員から主体的に意見を出させ、興味をもってもらえるような活動を進めることができた。 ③おいしい給食は生徒の学校に来るモチベーションとなっている。	①残菜をもっと減らす。	①新型コロナウイルスも5類になったことで、コロナ禍以前のような机の配置にするのも、1つの検討事項と考える。	○机の配置について、戻す意見の一方で「不安だ」「今のままがいい」という生徒の声もアンケートであり、継続して検討していく。

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	4	3	2	1	評価	成果	課題	改善案	担当より <次年度に向けた改善策等>
8 信頼される学校づくり (約束した教育活動をやりきることが信頼を得る)											
52 <開かれた学校> (1) 広報活動	・保護者・地域の教育課程の理解推進のため広報活動の工夫と充実を図る	学校だより12月までで9号発行。教育課題実践推進校「学力向上」のリーフレット配布、公開等。	9	13	0	0	100%	①研究発表において地域の方が参加し発表を行うことができた。	①今後も継続する。	①ホームページ内の情報を新しいものに更新する。	○大変成果のあるよい研究となった。今後も鹿骨授業スタンダードを継続していく。 ○情報リーダー中心に各学年担当を決めホームページを更新していく
53 <開かれた学校> (2) 学校評価	・生徒学習アンケート、自己評価、学校関係者評価の計画的な実施と分析結果を学校経営に生かす	生徒・保護者アンケートにフォームズを活用して効率化、回答率の向上を図った。	9	13	0	0	100%	①保護者アンケートにおいて肯定的な意見が多かった。	①今後も継続する。 ②法的根拠を理解して学校評価に取り組む。	①成果と課題を捉える力を教職員が身に付ける。	○今後も保護者との連携を意識し、教育活動を実施する。 ○学校評価の主旨説明を担当者が行い、教職員は自己評価に取り組む。
54 <生徒・保護者・地域> (3) 生徒理解、保護者の願い	・全ての教育活動で生徒理解に努め、生徒理解に基づく指導を徹底する	日常の生徒との関わりとQU、ETの結果を分析し、エビデンスをもって指導している。	10	12	0	0	100%	①常に生徒情報を教員同士で共有し、生徒理解に努めることができた。 ②学年会や朝打ち、QUテスト、キャリアパスポートなど成長の指標となる情報共有し生徒理解を深め、指導することができた。		①生活指導部会や特別支援委員会の情報(見立てや手立て)を綿密に情報共有する。	○教員間で細目に情報共有することを大切に、QUテストやET検査など今年度同様、研修や学年会等で検討する時間を設ける。
55	・保護者と緊密な連絡相談を行い、保護者の願いを受け止めて指導に当たる	年4回の学校公開で参観者アンケートを実施。全教職員で共有した。毎月保護者の声を掲載。	8	14	0	0	100%	①学校公開や面談などで保護者にすすんで声をかけ、悩みや要望を聞く態勢ができている。 ②学校公開などでの保護者アンケートでは肯定的な意見が多い。			○今後も学校・保護者・地域が同じ方向を向いて、生徒の健全育成を図っていく。
56 <チーム鹿骨> (4) 教職員のチーム・保護者・社会とのチーム	・連絡・報告・相談を徹底し、教職員が共通行動による指導を行う	主幹教諭、各主任のリーダーシップのもと報連相を徹底し、チームで指導を行っている。	10	12	0	0	100%	①連携を密にとり、なるべく足並みがそろよう指導に当たった。	①誰かがやってくれるではなく、分掌や分担のもとで、組織的に業務を進める必要がある。	①責任をもって計画的に仕事に取り組む。 ②仕事の分担や計画を大切に。 ③「ホウ・レン・ソウ」とWチェックを欠かさない。	○教員のチームワークが大切である。分掌間のコミュニケーションをよくとり、組織的な教育を実践する。
57	・学校と保護者・地域が一体となった共育を推進する	保護者会、学校説明会で「共育」を周知、学校保護者との連携を強化し、教育活動を行っている。	6	16	0	0	100%	①保護者・地域から好意的な言葉を多くいただき、学校との共育の意識が高まった。			○保護者と連携できる体制を整える。ボランティア活動に参加しやすい環境をつくる。
58 (5) 教育環境の整備	・きれいな学校(清掃の行き届いた学校)は充実した教育活動の第一歩である	事務・教育環境部で用務主事、事務と組織的に教育環境の整備を行った。	7	15	0	0	100%	①キレイな学校は仕事する気が高まります。 ②職員トイレの花や芳香剤はありがたいです。 ③玄関の花も長持ちするようになりました。 ④玄関の季節感ある手作り置き物も生徒に好評です。 ⑤主事さんの協力で、廊下・トイレ等きれいな状態が保たれている。	①普段の掃除では割り当てられていない特別教室も綺麗にして環境を整える。 ②生徒の清掃用具が古くなってきているので使いやすい用具を揃える。 ③綺麗に清掃させている。階段も綺麗にしたい。	①定期的に用務主事さんに手伝っていただく。 ②清掃用具を新しいものに入れ替える。 ③・ゴミを拾う・机を揃える・用具を大切に・整理整頓する…などは美化委員の活動として取り組ませる。	○教員の人数で新たに割り振れる清掃場所がある。次年度に向けて検討する。 ○用務主事の協力で学びやすい学習環境が維持できている。
59 (6) 働き方改革	・教職員が職責を果たせる環境を整える	学校全体でフォロー体制を構築し、教職員が休暇等を取りやすい環境を整え、運営している。	8	12	2	0	91%	①教職員の努力によってなんとか成り立たせることができた。 ②勤務時間を超えた在校時間を減少させることができた	①負担軽減や休暇の積極的な取得ができるように様々な場面を見直し工夫する。 ②入試関連書類のチェックは他学年の先生に大きな負担をかけないように工夫する。実施に際しては、明記をして、全教員の共通理解が大切である。 ③他学年の先生にもチェックを頼む。 ④今後も継続する。	①講師の曜日の偏りをなるべく少なくする。 ②机上整理。物を机に置かない。 ③職員室廊下側ロッカー上の荷物の整理。(撤去) ④学年のダブルチェックを徹底する。他学年の先生のダブルチェックに関しては、職員会議等で全教員の共通理解を求める。入試相談の書類の作成等では他学年には時間措置がないが、工夫することで勤務時間外にならないようにする。 ⑤ライフワークバランスを整える。	○働き方改革をさらに推進するため、定時退勤日を設定する。
60	・職員室の職場環境の整理整頓を心掛ける	職員室のブラインドを撤去し、カーテンを設置。明るい職員室へ職場環境を改善した。	7	15	0	0	100%	①カーテンは、とてもよかった。 ②カーテン、清潔でとてもいいです。	①職員室内の不要な棚や、コード類の整備。	①年度初めの机入替え時に整備する。	○棚の不要なものは廃棄する。
61	・ジョブ型の役割分担を行い、職務を明確にする	教員一人一人が役割を自覚して、分掌運営を行っている。	8	14	0	0	100%	①教員だけでなく皆さんが協力して行っていただきました。	①それぞれの役割を自覚して、偏りなく学校運営に貢献する。 ②今後も継続しお願いいたします。	①我が子を通わせたいと思う学校をつくる気持ちで仕事をする。 ②生徒数(学級数)が増える工夫をする。	○分掌部会で役割分担を明確化させる。進捗状況を報告する。 ○教室割り振りを3月1日から実施する。

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

↓…%の表示は「4+3」の全体に対する割合 ①②は便宜的なナンバリング

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	4	3	2	1	評価	成果	課題	改善案	担当より ＜次年度に向けた改善策等＞
62 (7) 学習環境の整備	・ユニバーサルデザインを取り入れ、教材教具の整備を日常的に行う	ICT(プロジェクター、タブレット)を活用して学習教材や資料が見やすい環境を整えている。	1	1	0	0	100%	①ユニバーサルデザインの視点で授業改善に努め、生徒が学びやすい環境を追及することができた。 ②ICT環境の充実を行うことで生徒の学習にプラスになっている。 ③ICT(プロジェクター、タブレット)を活用して学習教材や資料が見やすい環境を整えている。	①学習教材や資料が見やすいモニターを普通教室に設置する。 ②今後も継続していく。	①普通教室に各1台モニターを設置するために校内予算で計画的に購入する。 ②今後も継続していく。	○モニター購入については予算編成の際に要望する。 ○教室のUD化や授業のUD化を行う。
63 (8) 安全な学校生活の環境	・施設の安全、災害対策、物品の点検を日常的に行い、定期点検を行う	危険個所の窓には転落防止のため、ストッパを設置した。	5	14	3	0	86%	①ストッパを設置したのは良かった。 ②施設面で修理が必要などところも多くありますが、できるだけ改善できるように区と連携していきます。	①窓のストッパが動かないようにする。 ②動かないと災害の時に影響があるかもしれませんが、安全の観点からも十分なストッパを設置する。 ③ストッパがはずれてしまったり、落下しないようにする。 ④外れにくく、窓の外に落ちないなど、安全なストッパを設置する。	①固定式のストッパを取り付ける。 ②ねじ止めのストッパに代える。 ③主要な場所はL字型の固定のストッパをつける。	○窓のストッパは限定して実施する。必要に応じて安全委員会を実施する。 ○安全指導をていねいに実施する。

9 研修

(研修の日常化を図り、学び続ける教職員集団をつくる)

64 (1) 人権研修	・人権尊重の理念と人権課題についての正しい理解に基づいて教育に当たる	道徳科、学級活動の授業で対話的学習活動を実施、道徳的価値観を涵養するとともに日常的に人権課題について指導している。	10	12	0	0	100%	①変わりゆく教育現場において柔軟な思考、言動の大切さを改めて実感した。			○人権尊重の教育は東京都の教育目標でもある。今後も人権教育を推進する。
65	・教職員の人権意識の向上を図る	年3回の研修で教職員の人権感覚の向上を図った。Off-ijtで必置主任、担当教員が学んでいる。	7	14	1	0	95%	①研修内容共有するとともに他教員との意見交換も行った。	①教員の人権意識を更に高める必要があると思います。 ②人権尊重の精神のもと、適切な言葉遣いと適切な表現でコミュニケーションをはかる。	①伝えることは感情的にではなく、論理的に伝える。	○服務事故防止の面からも人権尊重の精神で教育活動を行う。
66 (2) 服務研修	・年4回の服務研修を要とし、教職の使命と自覚をもつ	「個人情報保護」「信用失墜行為」「交通事故」等に重点を置いて管理職の指導、研修を行った。	12	10	0	0	100%	①教職の使命と自覚をもって職務にあたった	①個人情報の取り扱いには細心の注意を払う。 ②共有フォルダを整理する。		○今後も服務事故0を目指す。教員間のお互いの声掛けが重要である
67	・服務研修の日常化を図り、相互に高め合う教職員チームをつくる	教職員間のコミュニケーションを円滑に行い、相互に高め合う環境をつくった。	11	11	0	0	100%	①服務事故を根絶するには個人の意識だけでなく、チームワークも大切だと思います。 ②今後ともよろしく願っています。			○教員間の協力しようとする姿勢が大切である。今後もコミュニケーションよく教育活動を実施する。 ○お互いに高め合う関係を作る。
68 (3) 授業改善研修①	・鹿骨授業スタンダード(SJS)に全教員で取り組み、日々の授業実践と相互参観を通して、授業改善を図る	区教育課題実践推進校の取組に全教員が参画して相互参観し、研究を深めた。SJSの取組の研究発表は非常に高い評価を得た。	12	10	0	0	100%	①区教育課題実践推進校の取組に全教員を参画させ、研究を深めることができた。 ②先生方のおかげで、無事に研究発表を終えることができました。ありがとうございました。	①研究で終わらずに、継続していく。 ②今後も大きなプロジェクトを進める際には話し合いの決定事項を尊重し、担当者を中心に見直しをもって計画的に進め、皆で協力する。	①質を向上させるために、各教員が取り組んだ項目を振り返り実践の共有をする。 ②研究の根幹を示し、計画的に進めていく。	○成果①②…今後も一致した方向で研究に取り組む。 ○課題②改善案① 研究を進めるには、思いつきではなく、期日から逆算して、計画的に進める必要がある。 ○改善案①…振り返りは研究発表の事後アンケートで実施した。配布したレジュメを確認して、研究発表の振り返りをする。 ○新入生に対しても、異動の教職員にも「SJS」や「ET」を継続して取り組めるよう研修方法等を検討する。

(学校経営方針P2～P7<教育目標を具現化するために>より)

評価項目(具体的目標)	具体的な取り組み	校長コメント	4	3	2	1	評価	成果	課題	改善案	担当より	
											<次年度に向けた改善策等>	
69		・全教員が年1回以上の研究授業を行い、授業力向上に取り組む	研究の過程で全教員が2回以上の研究授業を実施し、11月の発表で11名の教員が授業公開した	13	9	0	0	100%	①研究発表に向けて研究授業を行うことができた。 ②単元計画を作成し、観点項目を作成することができた。 ③研究発表を実施した成果もあり、今まで実践してきたことの再確認ができた。	①研究で終わらずに、継続していく。 ②研究をやりっぱなしではなく、成果と課題について、精査する。	①全教員が授業を見合える機会をつくる。 ②終わった後のアンケート結果を確認し、今後を生かせるようにしていく。	○成果①③ 今年度の研究発表を、今後の授業実践に生かしていく。 ○成果② 今年度、「単元を通して、生徒に身に付けさせたい力」を明確にするために、単元指導評価計画を作成した。来年度の校内授業研究も同様の指導案で進める。 ○課題①②改善案② 研究発表の成果と課題は、事後アンケートにまとめた。来年度以降の研修に生かしていく。 ○改善案① 2(2)にも記入した。全教員が授業を見合える機会を設けることを計画していく。
70	(3) 授業改善研修②	・「一人1実践」で外部人材を活用した授業を行い、カリキュラムマネジメント力の向上を図る	各教科・領域で9事例で多様な外部講師を招き、実践、単元指導評価計画を重視したCMを推進。	5	16	1	0	95%	①多くの教科で外部人材を活用する授業を実践できた。 ②いつも以上に外部人材の活用を意識し、授業実践を進めることができた。	①魅力的ではあるが金額が多くかかるプログラムにも取り組みたい。	①授業(生徒)に関わるもので補助金がかけられないか等、すすんで情報を収集する。 ②来年度の研究授業も2日間設定し、単元指導評価計画を意識した指導案を作成すると、今年度の研究発表が生きる。	○成果①② 外部人材の活用を研究発表としてできたことは、本校にも他校にも成果となった。取組を継続し、生徒に身に付けさせたい力を実現させていく。 ○課題① 「限られた教育資源」を有効に活用して、積極的に授業づくりをしていく研修をする ○改善案① 学校予算と私費会計をバランスよく活用する。出前授業などの情報収集する。 ○改善案② 単元指導評価計画を活用した授業ができるよう計画を立て、研修を進めていく。
71		・自己研鑽を心掛け、学び合う教員集団をつくる	年間講師の指導を受け、グループ協議等で学び合い、研鑽深めることができた。	11	11	0	0	100%	①研究発表に向けて、いろいろな先生の授業を見ることができた。 ②年間を通じて、学び合うことができた。 ③先生方の協力のおかげで、充実した研修が成り立っている。	①研究で終わらずに、継続していく。	①全教員が授業を見合える機会をつくる。 ②来年度に繋がるような研修計画を作成する必要がある。	○成果①②③ 他者の授業を参加する機会を通して学び合いができた。教員の協力体制を維持する。 ○課題①改善案② 来年度の研修が充実するよう、計画を立てる。 ○改善案① 相互参観の機会を計画する。
72		・特別支援教育、特に特別支援教室の運営と発達障害について研修を行う	講師を招聘して特別支援教育を学んだ(4月)。特支教室の運営「個別指導計画」について研修した。	9	13	0	0	100%	①専門員による日常のアドバイスが担任にとって大変に助かっている。	①巡回利用の生徒を担当していない先生方にも、関心と理解が深まるように工夫をする。	①引き続き、校内研修を行い、特別支援教育への関心と理解を深めていく。	○引き続き、校内研修を行い、特別支援教育への関心と理解を深めていく。
73	(4) 生徒理解研修	・QU活用研修を行う	年2回QUを実施し、結果をもとに研修を行い、生徒理解力の向上を図った。	13	9	0	0	100%	①年2回の研修の機会に生徒の様子を様々な角度から把握することができた。 ②異なるクラスの様子を知ることで学級指導を見直したり生徒対応に生かしたりすることができた。 ③研修会で学年間で話し合うことで、情報共有と共に心配な生徒への対応を考える良いきっかけとなった。 ④校内研修と位置付けて、生徒理解を深めることができた。		①1回目QU結果研修の際、専門の先生から各学級へアドバイスをいただき、学級指導にいかす。 ②QU同様に、生徒理解のためにETについても検討する。	○各学級の様子を学年教員で共有し、生徒理解を深める。 学級指導力の向上の機会となるようQU活用研修を次年度も継続する。